

折に触れ 四字熟語

NO. 351 『比翼連理』 ひよく れんり

< 意味 > 男女の情愛の、深くむつまじいことのたとえ。相思相愛の仲。夫婦仲のむつまじいたとえ。

< 出典 > 白居易『長恨歌』

表 言 : ◎比翼連理の仲 ◎比翼連理の誓い

用 例 : これらのすべてを二人がやがて比翼連理の契りをかかわした暁、花鳥風月の清遊をほしいままにする別荘地として<中山義秀・厚物咲>

語 釈 : 「比翼」は比翼の鳥のことで、雌雄それぞれ目と翼が一つずつで、常に一体となって飛ぶという想像上の鳥。「連理」は連理の枝のことで、根元は別々の二本の木で幹や枝が途中でくっついて、木理が連なったもの。男女の離れがたく仲むつまじいことのたとえ。

一 言 : 私が応援している青年が最近、結婚したというのでこの熟語を取り上げました。もう昔のことになりますが、結婚式に参列した際、たまに寄せ書きの色紙が回ってることがありました。私はちょっと気取って「連理之枝」と書いたことを思い出します。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」